

社会問題・健康医療対策特別委員会調査報告書

令和6年1月22日（月）に、秦野市役所において、「少子化対策について」調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 加藤元弥様

社会問題・健康医療対策特別委員会委員長 市川和広

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 秦野市役所
- (2) 出席委員 市川和広委員長、柳瀬吉助副委員長、
田中洋次郎、ます晴太郎、山本哲、細谷政幸、中村武人、
作山ゆうすけ、相原しほ、佐々木正行、添田勝の各委員
- (3) 随行者 清水主事（議会局議事課）、川瀬主事（議会局議事課）、
小司副主幹（政策局総務室）、鳥居主査（総務局総務室）、
朝崎主査（健康医療局総務室）
- (4) 調査日 令和6年1月22日（月）
- (5) 行程 県庁 → 秦野市役所 → 県庁

2 秦野市役所

(1) 調査目的

秦野市役所では、秦野市総合計画「はだの2030」のリーディングプロジェクトのうち、「未来を拓く子育て・教育プロジェクト」に、若い世代への結婚支援を位置づけている。

今年度は、結婚支援事業として、AIを用いた性格診断システムを活用した婚活セミナーや婚活バスツアー、マッチングパーティーを開催している。

こうした取組を調査することにより、少子化対策に関する今後の委員会調査の参考に資するものとする。

(2) 調査先出席者

ア 秦野市役所

秦野市議会議長、秦野市議会事務局議事政策課課長、総合政策課参事兼課長、総合政策課総合政策担当課長代理ほか

イ 株式会社TC総合企画

代表取締役、副社長

ウ 京浜商事株式会社

管理部システム販売課課長ほか

(3) 秦野市役所（秦野市議会議長）挨拶

(4) 委員長挨拶



(5) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

ア 秦野市の人口及び合計特殊出生率の推移

イ 秦野市総合計画「はだの2030プラン」の概要

ウ 総合計画における「若い世代への結婚支援」の位置づけ

エ 少子化対策の取組

オ 結婚支援の取組（結婚支援セミナー、A I 分析システムを用いた婚活イベントの開催）

カ 令和6年度以降の結婚支援の取組

(6) A I 分析システム体験



(7) 質疑応答

質 疑 A I 診断は写真ではできないのか。

応 答 脳から出てくる振動を読み取っており、写真では振動が読み取れないので、どうしても動画で判断する形になる。

質 疑 その場になくても、動画があればできるのか。

応 答 できない。光が重要であり、一定の照度がないと正確な診断ができないため、Z o o mでもできず、リアルの場で撮影しないと効果が出ない。

質 疑 A I 婚活イベントの参加者が、想定していたより少なく15人ということだったが、そもそも想定はどれくらいだったのか。

応 答 そもそもは30人で想定をしていたが、結果的には半分しか来なかった。

質 疑 この診断自体は、令和5年の単発で、令和6年はやらない方向なのか。

応 答 令和4年のセミナーと令和5年のイベントでは、このAIシステムを使用したけど、令和6年度は個別相談をやろうとしているので、今のところは予定はしていない。

参加者は、こういったものがあることで話題のきっかけになる。そうしないと初めて会った人同士で趣味の話にいきなりいけないとか、ハードルがやはりある中で、話題づくりとしてよかったし、申込者の中にも一定数、AIシステムという新しい取組に期待して申込みしていただいた方もいる。

また、市内同士だと知り合いが来てしまうという懸念もあると思う。例えば、市と市が協力してやってみる、自治体が協力してやってみる等、皆さんと一緒に婚活をやっていったらよいのではないかな。

実際に御意見を伺ったり、アンケートを行うと、出会いの場が欲しいというのは必ず出てくる。実際に地元でやってみると、意外と皆さん尻込みしてしまい、問い合わせはあるが、当日や前日にキャンセルをされたり等があったので、心配や不安な気持ちにどういうふうに行政として対応するかというのは、大きな課題だと感じている。そこで、新年度は一旦、AI事業の方は見送るが、その間でもう一度、対象者、当事者の皆さんの意見を聞き、ちょうど今、総合計画の次期の、後期基本計画策定業務を進めているので、そういう中で広く市民ニーズを把握して、皆さんに寄り添った対応、事業を展開したいというふう考えている。

質 疑 成立したカップルに対して、その後を追いかけたりはしないのか。

応 答 市としては、なかなか個人の方を追うというところがあるが、一度マッチングした方々に新たな出会いを紹介するのはあまり適切ではないが、市が行っているイベントなどの御案内は続けて、参加いただく中で、いろんな感想を聞いたり、アンケートに御協力いただいたり、そういったことを進めたいと考えている。

質 疑 2人が結婚したかというのはわかるのか。

応 答 当事者のお2人に御理解いただければ、事業成果として紹介する場を与えていただければと思っはいるが、これは、今後の展開に期待しているというところである。

質 疑 予算はどれくらいか。

応 答 今年度は150万程で、そのうち3分の2程度は国の交付金で賄っている。

質 疑 AIシステムと、このようなツアーを委託して、その範囲内で提供されているということか。

応 答 そうである。事業者の決定はプロポーザルでやっており、市の方から基本的な事業の仕様や予算額を示した上で、御提案いただいている。

質 疑 他の市町村と連携して、例えば、藤沢市と行ったり来たりし合うかどうかは、やはり相手方がやっていないと難しいのか。

応 答 秦野市も近隣の市町と広域行政を推進しているので、そういった中で意見交換、また、新規の事業の検討をしようということで話しているが、まだ現時点では、実現には至っていない。ただ、他の事業で、移住定住というのは広域で取り組んでいるので、その中に結婚支援も組み込めればと思っている。それには、町のほうにも住民の方のニーズをある程度把握してもらい、それがだんだん広がっていったらいいと思う。

質 疑 まだ結婚されたという方はいないのか。

応 答 まだいない。具体的な出会いとしては、今年度から行っている。ただ秦野市内の若手事業者の皆さんが、自ら、後継者の確保ということで、もう10年来、出会いのイベントを進めている。その中では、マッチング例が多数あり、結婚に至ったというのを多く聞いている。行政としての役割の部分と、当事者の皆さん、例えば、事業者や、それ以外のいろいろな組織として進めていただくこと、こういうところで連携して相互に補完できればいいと思うが、お互いの事業の紹介・周知はしているが、どういった形で進めていくかというのは、まだ検討段階である。

質 疑 恋カナ！プロジェクトに連携されているので、これを通して結婚すれば結婚祝い金も出るのか。

応 答 恋カナ！で紹介をさせていただいているが、恋カナ！の単体のプロジェクトではない。

質 疑 秦野市としては、特に祝い金はないのか。

応 答 結婚して移住定住し、家を建ててというようなところに祝い金はある

が、結婚しただけだと出ない。

質 疑 プロポーザルで、その仕様、評価点等、スケールに御苦労なされたと思う。おそらく、役所でそういうのを作るのはとても勇気もいったでしょうし、勉強なされたのではないか。どこに重点を置いてつくったのか、また、何か参考にしたものがあるか。

応 答 事業立案に当たって一番参考にしたのは、令和3年度の若手職員のプロジェクトチームの意見である。その中でいろいろ検討し、やはり当事者である若手の皆さんが、こういった内容だとなかなか参加しづらいというのをあらかじめ聞いていたので、そういったものを参考に、事業を検討した。1つ大きな柱としては、やはりAIというのは新しい取組で、それを先行的に導入し、今の時代に合った新しい方法で何か行政として支援ができないかということで、立案をした。仕様等は、担当の方でそれぞれの先行事例などを参考に組み立てているが、結婚に前向きではいるけれど、何か1つ背中を押してもらいたい、そのきっかけを求めているような方に、行政が行うことで安心して参加いただける、一步踏み出していただくということを主眼に置いている。

質 疑 TC総合企画さんが選ばれたのは、やはりAIが決め手か。他はそういうプロポーザルはなかったのか。

応 答 AIで、私たちが求めているようなものは、なかなか今、具体的に提供いただける事業者さんは限られてしまう。



(8) AI分析システムの概要説明

(9) 副委員長挨拶



(10) 調査結果

秦野市役所では、AIによる性格診断システム「A i - T R I G G E R」を活用した婚活イベントを開催している。A i - T R I G G E Rは、軍事システムから生まれたシステムであり、30秒間動画を撮影することにより、性格を診断することができ、このシステムを用いることで、イベント参加者の性格を8つのタイプに分類し、タイプ別の恋愛や感情傾向等に対するアドバイスや、相性のよいタイプの参加者とのマッチングを行うことができるとのことであった。

秦野市役所は、結婚支援に係る取組を進めるに当たり、まず令和3年度に、若手職員によるプロジェクトチームを設置し、結婚支援事業では、特定の価値観の押し付けや不要なプレッシャーとならないよう留意すること、地域活性化や移住定住の効果等を視野に入れること等を確認した。

令和4年度は、婚活セミナーを実施し、その際に行った参加者アンケートで、市に対して希望する事業として、実際の出会いに繋がるようなイベントを開催して欲しいといった要望が多く寄せられたため、これを踏まえ、令和5年度は2つのイベントの開催を決定した。

まず、「AIセミナー&バスツアー」を開催し、男女別のスキルアップセミナーや、AI分析システムによる性格診断結果を用いたマッチング、秦野市が進める「表丹沢魅力づくり構想」で推進する森林セラピー体験等を行った。しかし、参加者数は当初の想定を下回り、地元の自治体が、一定程度狭い範囲で出会いのイベントを開催することの難しさが課題として挙げられた。

また、2月4日に「AI診断&パーティー」を開催予定であるが、こちらも参加予定人数が当初の見込みを下回っており、地元の限定した範囲で知り合いになってしまうことが、心理的なハードルとなってしまっていることが考えられるとのことであった。

こうした取組を踏まえ、令和6年度は、これまで参加者からの要望の声が高い、個別相談会を定期的・継続的に開催する一方で、AI分析システムを活用したイベント等は行わない方向とのことであった。システム自体は、参加者同士の話題づくりとしても機能しており、申込者の中には、AIという新しい取

組に期待して申込みした方もいたが、市内同士だと知り合いが来てしまうという懸念もあるため、結婚に関する支援については、近隣の自治体同士が協力して行っていくことも必要である。今後は、取組の効果検証を行い、市民ニーズに合わせた効果的な結婚支援について検討し、関係機関・団体と連携を密にしながら幅広い事業の展開・推進に努めていくとのことであった。

本県でも結婚に向けた機運醸成を図るため、市町村等と連携した婚活イベントの開催等を行う「恋カナ！プロジェクト」を実施している中で、これら秦野市役所の結婚支援の取組や、取組から得られた課題は、今後、本県の結婚支援に関する委員会調査を行う上で大いに参考となった。